

報道発表資料（令和8年10月19日）

報道関係者 各位



「読んでもらった絵本」を、次の世代へ

高石市制施行 60 周年 中辻悦子さんとつくった記念絵本が誕生

高石市は、市制施行 60 周年を記念し、高石市出身の美術家で絵本作家・中辻悦子さんと制作した記念絵本を誕生させました。

記念絵本は、赤ちゃんとその保護者が、絵本を介して言葉や心を通わせるひとときを持つきっかけとなることを目的に制作しました。

高石市では、記念絵本を「こんにちは赤ちゃん訪問事業」において配布するほか、乳幼児期からこどもたちが本に親しみ、こどもと本との出会いを育むためのさまざまな事業に活用していきます。

■「読んでもらった絵本」が、いつか「読んであげる絵本」に

こどものころ、親に絵本を読んでもらった記憶。

そんな何気ないひとときが、こどもの心に大切な思い出として残っていきます。

そしていつか大人になり、親になったとき、自分がこどものころに読んでもらった絵本を、今度は自分のこどもに読み聞かせる。

一冊の絵本が、親から子へ、そして次の世代へと受け継がれていく。

高石市は、この絵本が親子のつながりを育み、こどもたちの心に残る一冊となることを願っています。

■中辻悦子さんの「原風景」を、次の世代へ

中辻悦子さんにとって、生まれ故郷の高師浜（たかしのはま）の風景は、今も心に残る大切な「原風景」です。

白い砂浜、松林、ピンク色のさくら貝、どこまでも続く青い海と空。

幼いころに見たその風景は、今も夢に出てくるといいます。

今回の絵本も、こどもたちにとって、いつか心によみがえる「原風景」のような一冊になってほしい。

赤ちゃんのころに出会った一冊が、何十年後かに、今度は自分のこどもへ手渡される。

市制 60 周年を機に高石市で生まれたこの絵本が、世代を超えて親子の心をつなぐ一冊となることを願います。

■絵本の概要

書 名：オレンジいろになりました

作 者：中辻 悦子（高石市出身・美術家・絵本作家）

出 版 社：文研出版

全国発売：2026 年 11 月下旬予定（定価 1,650 円税込）

活 用：「こんにちは赤ちゃん訪問事業」での配布など、こどもと本を結びつける事業に活用

■発 表

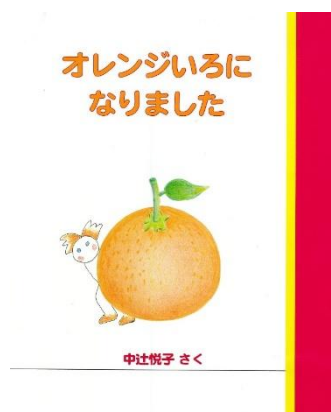
日 時：2026 年 11 月 1 日（日） 午前 10 時～正午

場 所：アプラたかいし大ホール（高石市綾園 1-9-1）

内 容：市制施行 60 周年記念式典において、中辻悦子さんご本人をお迎えし、お披露目いたします。

中辻悦子（なかつじ・えつこ）

1937 年大阪府高石市に生まれる。日本を代表する美術家、絵本作家。『よるのようちえん』（福音館書店 谷川俊太郎・文）で第 17 回ブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリを受賞。主な絵本の作品に『まるまる』『これめ』（福音館書店）、『ふたり』（クレヨンハウス）などがある。夫の元永定正は日本を代表する美術家、絵本作家であり、元永の絵本の構成・デザインも多数手掛けている。



問合先	地域創生課 TEL：(072-275-6138 (直通)) e-mail：ti-sei@city.takaishi.lg.jp
-----	--